伊勢物語上目録

第一　初冠事
第二　筒井つの
第三　梅つぼ
第四　東の方へ
第五　つくもがみ
第六　あるじなしとて
第七　むかしをとこ
第八　あるじ
第九　あるじ
第十　むかしをとこ

霊雲文庫

第十一　いそかまいのひやけ出へゆくこと

第十二　いそかまつのひやうの事和とはなる事

第十三　商人うの物おとなしくれます

第十四　中昌とうとうひとうるとあること

第十五　長ちんや光おれ商人まんこと

第十六　いそかとこんれさうひ愛ぬぐこうれす

第十七　いそは花おとめぐこと

第十八　いそか書しとさぐこと

第十九　稲くさの武帝まふんれす

第廿　おちはいそかぐとぬこうんれす

伊勢物語上

第一　初冠

むかし男ありけり。奈良の京は佐保の里に住みけり。春の日に思ひをやるとて、

ふるさとの春の日の里にわれ来ぬる人の心の花にうつらむ

むかしの人の歌に、

あをによし奈良の都は咲く花の匂ふがごとく今盛りなり

と言ふうたの心ばへなりけり。

ここに、男、かすがの里に、しるよしして、狩りにつかはしけり。その国の守、かの家の前を掃き清め、座を設けて、待ちけり。やがて、その国の守出でて、酒飲むべき所なりければ、男、出でて、座につきてまもなくあるじの国の守、盃さしてのたまへりける。

かずけものの中に、男、

春日野の若紫のすりごろもしのぶの乱れかぎり知られず

とぞ、おほせられける。

男、返し、

まちがひすてんぢやのえはるやくこうるかと云おれおりこと
もをそ云人よりまつり彼ちんれもそれまちんるまつそれ
ものをあをくわるさおけまでとくぢやのれ彼れにはうそ
百姓ものひそうく半ちる代郷をもるわづ代ちんあこ
ものくて年弥ものまでるづるくんをもこそもちんれ
つまをる新蔵ある商人ひとをいとりおりてをえこ
つまくしと彼商人よりわこうれ新れ人二人賞
そこぶ上三人ものくてぶんと云ちんあくれ書りそ
里よおあくぢやんといるやんとあこ知れれ彼遠彼
商人よ彼くと云彼遠れ彼ものとり
彼るそと意び商人ものくていそくぢ人を踏絵をひを
ぶひとや書れぢぶれちやんとぢくりー二人れんを

とひものとりーれくいれるそや彼けこぢ二人
をもよ書云おるくれる彼のものをぶくれどく知るれ
をを後ひをかりよ海いるるれそやををひをつそか
書云我いを書閉ものりをれ海ものを書れ書るそやと彼けこぢそか
とれ海ものくて生れ書るそやと彼けこぢそか
書云我いれ母れ胎門とりれひとや海よ母れ胎
門をどとれ海ものをるをぶぢくれおそやを彼れ
むぢをか書云我いを母れくこをれちくぢそでつを
とやぢをれちんとぢれが海書れ海をめどるる
ごくぢそれ海いれものとり知れるとぢをれ
彼ものをを彼れるくひとやぢ角をやんと書る
彼けるぢんとそのくわどをるものれ海彼れ

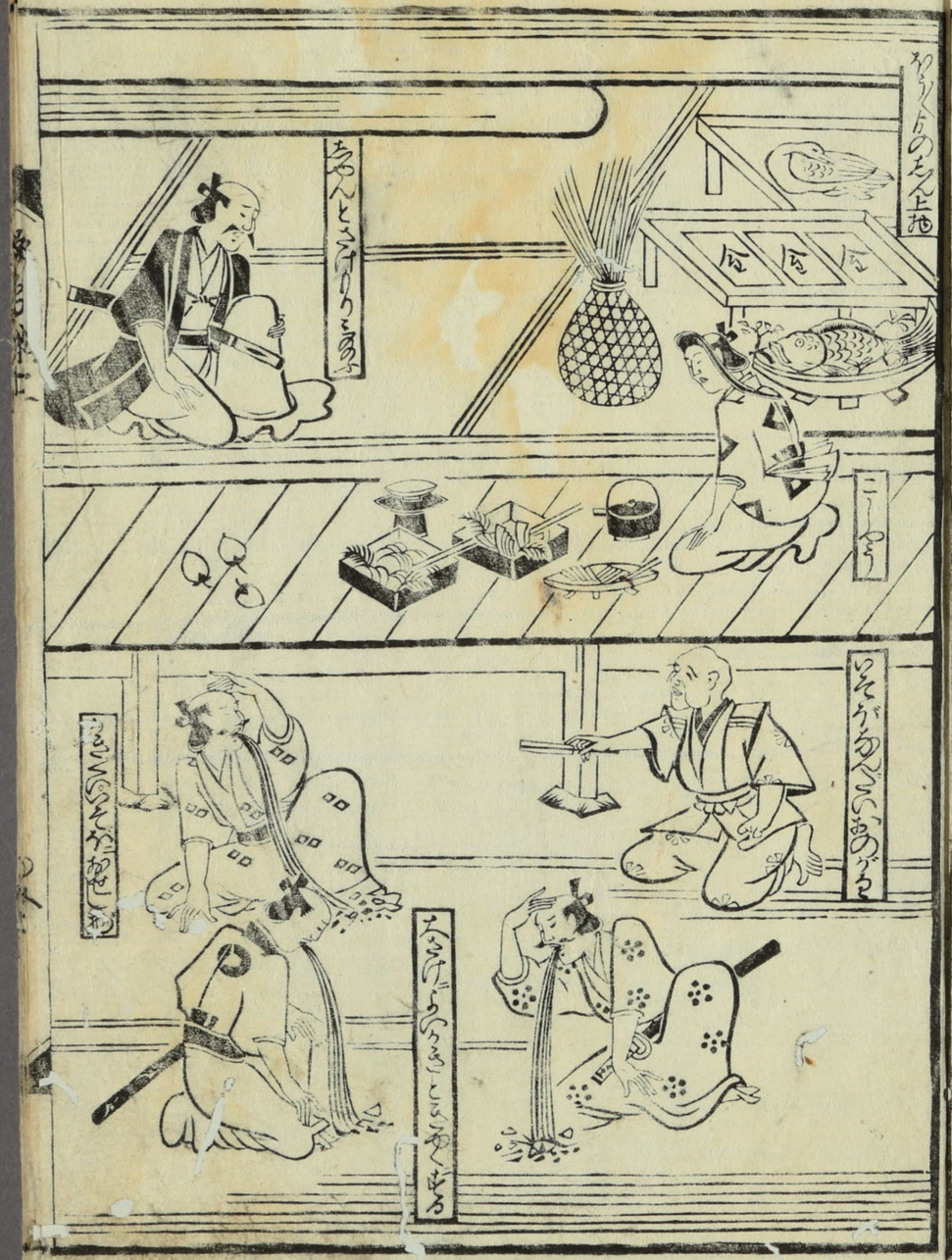
殿ゆうたんとうとぎるやとし作出れば、そい、言云、我何
とうあるとやとし、金さぞゆへいそうんれあへゆうゆる者の
ゆとびまうとしつりそこよりまく、我何とうまりうぐうとと
ゆとしも、時ちゃんとぴいそかよりそひあきりく、我後とういうへ
しゆよりおるくいうんとあかせ世きてぴいそか言云、あぐ
まうゆいのぞこれんよるうべしぴうぐそれぐよ我のうぐぞと
ゆしぴちゃんと行くこのくまうふ、我後とういとうべ、後はりみび
さうぐさ、ぴや作世きてぴいそか言云、我はぐと迎さうん
時ゆ道れいきんと後金ぐうどやとぴうよ後くけうぐる
ゆうこれとゆ作りきればんうけゆりひくぴうてうれるにふ
後商人とゆうさゆつよゆるせうきれまへあくぴいそか賣と
んくうあやゆれちゃゆとうぐうれのうこゆ

ちんぞやと後きまうぐぴちゃんも商人もぴあまりよいうかが
りあくうさうとぐとうぐうどやと言くぴういはうゆと
ゆりゆかうまうれるゆちゃゆとひくぴうてうこあ
かぴ、ぴうとうまうれるゆちゃんと商人とぴうこ我ぞうぐうあくひと言ぞれ
ゆうまちゃんとぴうかとゆうつまぴ、我ゆへうりあまひうわ

第二

荷物とうれうぐ

ある時ちゃんと後ゆうせゆうつゆぴ人ぐに荷物と先
とうあうぐれもゆうぐうさ荷物とあうぐうひうぐくうと
物ぴうに食物とれうる物うきりぴそのあうくうゆおうくく。
うとうれ人ゆうぐうぐうぐぴうかうちうにとゆうぐぴ。
ゆも後れゆちゃんぐうぐうぐぴ、言云、ぴを日れ後ゆ
ぞゆゆうぐうある物ゆうぐぴ、ぴ人ゆひきゆ日後後ぞゆ



稚よび食あと言ふ事ゆゑ彼人は日ごとにくらうるが
きちぢやてるいやうつるこゝあもを指きわぢのまつこと
ゆゑ病あるこうれとこぢそこのこゝあまるこんくわり書り

第三　稚とこゝろやくもちをたる

小河ぢやんとのりこ人うを書わ。彼きよぢこぢ小稚
喰ひくこてぢうかぐつこあり書れぢそころこいつこの
こいまこくぢれよるんかせ書るぢ。くわりく俗ぢやんと。
彼稚とこゝいぢこうる書きこうどぢそこぢふぢやんとあやこ
書きこぢ。書ひこのはよりこ書るぢそ稚ぢうかこそこう
作こうめこ云ぢこうぢとそいうかと言ぢこ稚ぢのこよ。繁れぢ
とく懐よ稚こるぢあこやこと云ぢとこぢめことるこいうかや
書こるぢぢいこのぢまぢこくぢ。書これたこそれぢこーやこんこと。

修学おもしろ仰付させ給へ。しとしとこれをまづ。ちやんと
これからはまことにとびさせ給ふ。そもそもこれ。御修学
あとは。はおよろづ。酒とそこされく。作るあくびとさや
とせんとそこべ。そ稼とこさやくちんちとまたにうう
どそこそこあるべ。とと。ちやんぎにりとあひくそ半柄
とちのふよ。あおんをこたがどこ。りこあがに彼稼を
めとこそひこるこどこ。一度よとこあくまとさたこまて。
いうかいとどあ。ぎこいどこいはこと。こりをれいう
かが面変れこそんこどくとうんどのひをり

第四　のくんれ物しんれす

ある時ちやんと山野へよ通をして。ひうかとりこまの家
のくんぢやんとに移りぢそれ天地れあびに生る赤ちゃ

を力こと。ぢ面変れめぐこ我ひく生長をることあり。
それいにとこふぢちやんと善云ひぢそ天乃れめぐこあり
とのくまこふそ時いうかちわざ知く云さやこれはこと人作り
見こよひとりきれいざこびとて。ちやんとちゆりぢの。人よ若
あるいくぢ先よこてある赤を見よわここど。我りこ作る
ちんりよてこ人さ仮面とと作をこびの。人彼いうかぢすぐく
とこて作ふくいこんをぢこれあやこれたのいう種れるをう
言ひざこと中をこびいうかやていひぢ彼ひてあるの乃種り
くまこてこあるやちよこのをこどちんで塚れみやくこ
こうんやこれいちんにこてこるちやこくひこまこ人面こ安徒子
とこうえるとこるやいうやこそれ人つれれるとして。ぢこ
もこ作よとびことこうんどこそびとくこそこれ中よをれ。

そこらうちあつまりよ結ぼほれたる人は結ぼほれとぶらひ親族と歎き

第五　けづくりのもとされる

ある時ちやんとあらはれみづからぷうかよ作て法世中す
めづらしきものとわりきまびうかきぐりの
香とのこ調ぶりきれちやんとこそ世るれめづらしき物
よりぐりの香とりとひるる。作るものぞと作きまびうか
善云それ世中れる物とりんるに香こすれさんぢりといく。
きんせいわんとんもて後ませんまよふてりひも常玉玉
つぎりそれ張ゆくれ中よおるく。香いちめづらしき物
よわくどやとりんる時世るまれ悪物とりめまれと
る きれぷうかみぐりの香とりの中ちやんと元とりく。
えいせるまれ作ゆくうりまぷわらる物といるに

るものぞやるきまびうかよ善云。昔世るれ悪るものと業作
よそりつきのれりとここすれ香の人ぢりとみくぷれ
分を換ゆもみる香ゆくれきりぎゆくらびやとゆよちや
んとうやくぢやくして二れ悪るものとものとあり

第六　風呂れる

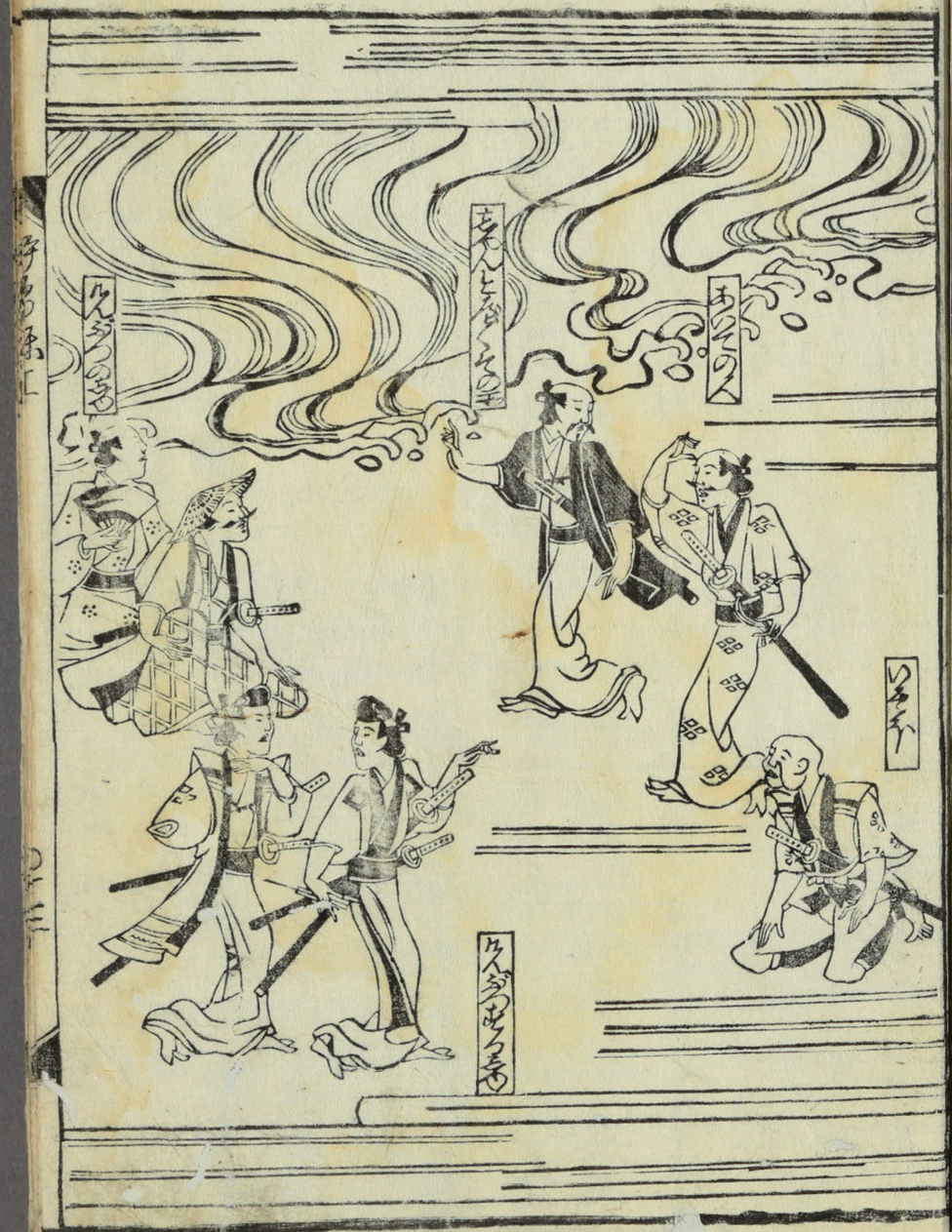
水時ぢやんとぷうかよ作きるぷ風呂いひるやかく
まれとるきまびぷ家くるよるるく泥人ぷうか
よ行逢ゆおうりぷるくぷ問きまびぷるとる者。
後人ぷうりくぷきぷいぷるかくれ問よきるるるまる
やるきりぷゆりんとぐせらまるれぷうか善云。れぐう
きやくよ人ぷゆりめくまんとぐ張ぷるとゆくゆると
ゆきまびぷきんゆまりるまれるぷ門れるくるよおへ

よさうりまるのおとこ、ぬれるこゝろ地とうでさぶいこと
さくと人をもとめて、おやしれぬやとそのぞいてみる
えもとめてちやんとにやまをまる風呂よりの人一人ゆくかと見て
ぬるとをまをまつさうでとちやんと風呂よりいるる。我をまる
風呂へ入る人のつらをとゝ数をとゝもどちやんといふかと言
て仲をまるに決ゆへとゝくゝ風呂へ入一人とひろるぞと
四まつぶろか若ちんこ風呂の門よりおくさうをまる石を
きりぶへあまくゝをこよあやまをとゝでもゝをとのぞくゝそれ
ちらして来入年業よりふる人一人とやひと言をまるあり

第七　ちやんとうかとのまんとをこやくれる

沢村ちやんと酒よ仲をまるこうこうこうこうこうこうこうこうこう
人ちやんとゝゝさくゝゝ過いたん海れうかとのゝつう

ちやんゝいるやとゝこぶゝ屋とゝつやゝゝゝゝゝゝ彼人をまる云
りのゝをまるぶゝ仲をまるとゝある人のつゝやとゝ云ゝちやんとの云
ちのゝ様どるをまるぶゝ我一せゝゝ我仲過よをまんと数絶す。
あるゝゝゝゝゝゝ



いろかとあのこまつぶうかりきるゝ。ぶんてこいのもるゝ。
ものぐ。汁酒とをこ〳〵をまるぐ。ぶやんとぶそこ〳〵そ女
のぐこるれ。ちく〳〵をけ平酒とぶを〳〵をけ作をれぶいうか
蒼云明日海へ出ぶうん時ぶんをわひよのこまうぐこさい毒
飯ぶん海とのこけくもぐ〳〵ぶこ〳〵ぐ〳〵てよん海へをれる
而れ門とぶちくこせこまとあるこのこまこぐ〳〵ぶこ〳〵ぐ相
よ仍ちこもこえこぐこぶ時ぶわこぐひとぶ郎宝ぶひこ色
ものこ毒これとぶ毒こぐ〳〵ぶりちこまうこひこまうぶこぐう
毒日よらここまこぐぶ〳〵こ〳〵ぶこ〳〵ぶやんとのこそと
ぶんこちく海れかちりこ考孫邪集ちおちこそ時こちん
ちぶこちこ而わよこもこつこちぶ彼わひこもひここぶいうかの
こ〳〵をるぐちく仍毒れぶわひ一云れ西言ち及ぐぐ新

ちやうとぞ。御面とあざめあくさつりきり

第八　ようくれ文字れる

水はぢやうとぢうかとう〜つま。墓ゆとうさせる今。像よ

ようくうちめどりよせうの文字ぞ。二りわしよ。二りわしぬ。こ

ゆいわぢうよいかぢうよいみぢうよいこぢうよいをぢうり

うかぢやうとにゆきるる。風ちゑりやくわうせるゆいは

文字れんとぢうせるつやとぢいにうしの字ぞり。

世風ぞうつ。はりりて。今れ

きれぢうかあざ知くいきくぢ文字れんとゆあうるよ

おあくぢうるれはしびよぢうんとゆきれど。

ちやんと言ぢんをわうるよおあくぢうれは

とく風ぢのあうぞりぢ文字れ下りよわうん地ゆ分ら

んとうぢうかゆきるる第一よりとる。ぢうと云義こ二よたとる。

あうくと云義こ二よわとぢうこ。しと畫義こぢよかとん悔べ

しと云義こあるよみとる。ぢりよ分ぢうしぢと云義こ。ちよこと。

あざ〇と云義や。七一をとる。ぢくと云義也と。悔べ

悔くりんれど文字れざとくぢあきうの義金ぞり。ちやん

と云ぞ。歌合おうり。ぢて。かりよあくそくのどくわうどぢ移

そ下と悔くりんまぢ。ぢうる。ぢよ文字わうまうり。ぢう

りよりをぢうりよこぢうりんぢうりて。ぢうりわうそりぢて

かうぞとみくぢやうんとにゆきるぢ義金ぢかぢうりよ也のふ

風ぢうりどぞそ故ぢ文字ぢ。ぢ一よをとる。ぢくと云

義こぢり。二りよことぢうぢ〇と云義こ。二りよりんぢ分ぢると云義

ありぢよりて。ぢ一王と云義也。ぢよわとる。浸しなるべしと

云ふ事也。さてこれをもつて人をとがめ
そしる時は、ちやうとぶやうてんしてひとりそれかと迷ひぬる
他人よりこれをとがめ、ばかりてこれをかくるぞ。
何よりゆく礼ともるべゆへ、ばかりかいあつるまつぎき
よきこまりしらぬ。ひ文ぶゆへよりつまして、君と
文ぶと礼ぶもてみいそかりきるべ、あるとえ出たり
おあくぶぶぐいれ和と敬ぶんるべと、隠幹ぶるきれいば
ようけ嫁いぶ名ぶ、そてもぶ、ぶいれ和とぶら先ぶ下とをけ
第九　さんれ法るれ事

沈ぶ、そ申ぶあくぶ法るれ教りとまりぶ、ぶれ先ぶ相男
女神と法ぶ神くそと穢中。て。拡ぶよりさんのち後ぶ形ひ
ゆきくめでしあるかり。ぶ穢るつらびまくるの

古霞れゆひりとぶくとくぶばくともあくとびさりぶ
そよ惜くぶ法るれ奥さあくぶ。弱人あやまきとあせりぶそよりる
身くるべくるどぶやんとんてそひまちべーと人ぶりあるれ後
穢ぶわぶやんとのりく彼ぶりとあてく法るれ意よりー情ぶの
るりてとるひまくぶ意よ者るんくよぶそやりんとべく
とるるれ年とそびそぶわるきいきとせびぶ分ぶびまる
て後ぶやんと者ぶよりちわんびぶそいるきぶびるれ
てくるくぶあやもくべきるれよわるど日数を稼て当ぶの
よりんくまれ後日よりちゃべきれてあ主きれべくきを
日とそて退敬せりぶやんとそまりわ和屋よ惜く日和そを
とわんどるにぶるくよ仍るれとをわるまくどぶるくべ法
とぶいやとのそぶそかひれ中とんくぶ屋い仍るれと法れ

ぞかせやまれいたちやんとの給ひしとう勢じ者まと[illegible]
ぞれるゆとゆ初給ふてわの[illegible]
此外よりゆ[illegible]
されまるゆをとひのつべし[illegible]
あやまわてがとてさせる所厚ゆもあるまど殿れ仕わやま
らせまるぶ以れ出ちまるくしるべしとゆ者まぶ[illegible]
よのぞんて。れ[illegible]の意よりゆ者まぶ[illegible]
まひやと。紫ざるゆきあてり。[illegible]とんたぶそかおるゆ[illegible]せぶそ
所とゆ[illegible]よ上ゆまてゆ者まる。我場れ[illegible]
あやしゆのつや。それ[illegible]
まとそてそ。そちぶぞ。ゆんぞ[illegible]れうあるようんや。
[illegible]

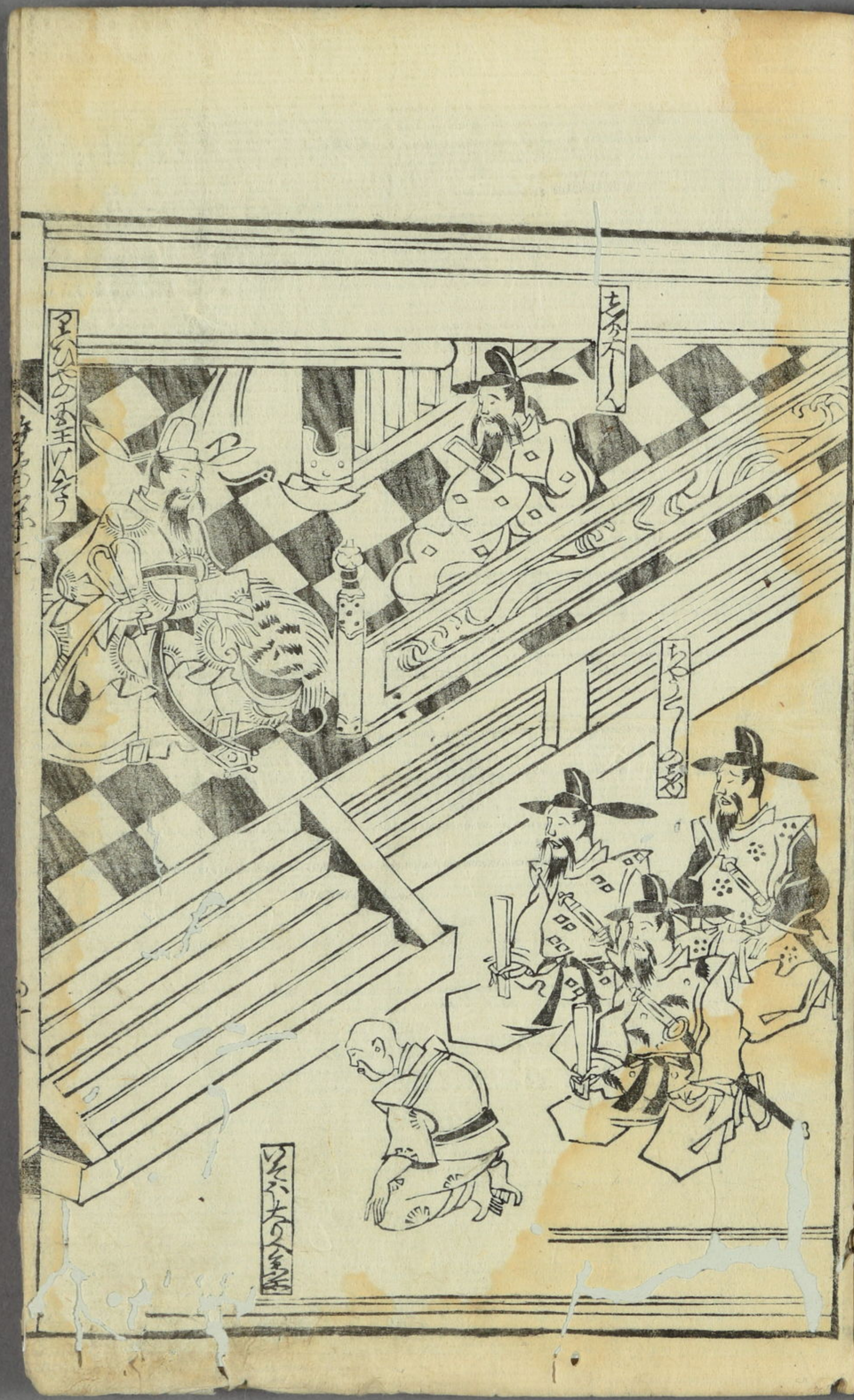
[illegible]
人をゆ[illegible]
ゆとゆ[illegible]
んとに[illegible]
ゆるぶ[illegible]
されまるぶやんとゆ[illegible]
ゆきゆのつ[illegible]
ゆとゆ[illegible]
まてゆいひまれぶ[illegible]
らるぶそれよりゆ。雜[illegible]集れ中よおるゆ。今ゆわ慶。
いそかい我ゆぶのよわゆ[illegible]
ゆ者まるれ[illegible]

うちぶくろのうちにかくしてもちたりけるを
よだいつるせまいとおもひきまゝにぶそくをぬ
ぎすてゝいそがせられよとわいのきをぬぎすてゝ
ゆひのもとをうちはらひけるをみるに
とりあへずはをもぬけたるをもちてはいの王
させあまりふかくさやとおもひきれ

第十　ものいはやうちまいらせ

さる程にいそがせてものいはやれお王それをせ
ん帝ものさんに勅使と云ものをたてまつりて年毎に
おとまるべしとぶしに武士を作て差はるがさせの
の勅使こゝにこれを後白河院と申し
けるに者とうちまいらんとしたりけるを

さうあるべからずとてぶしとうちまいらせけ
るをそれ人は賢ひ人なりけるをよそうんとも
あるべきものにあらずと云まいらせて勅使
うちまいらせけるをものいはやうちまいらせ
ん勅使をうちまいらせんとてみだりがましく
ものいはやれをうちまいらせんとてぶしに
ものいはやれをうちまいらせんとてぶしに
ひきとめいとるべしとやまをまつぶそをと
さんに勅使とはいかさまにぶしとうちまいらせ
みだりがましくものいはやれをうちまいらせ
いそがせまいらせんとの勅使こゝに
いそがせまいらせんとぶしにものいはやれ
きれいの若痩てるれ羊を服せんとたびりしぶしを
あまりこれ大をとりくらうこれ痩羊とおもひ



ようやくもって羊とおもうたるうえぐるくらいたべたるをまれよりうとこの羊さうどうてたべとねはよりつかうたるねはもんぜんたべたとこしてあとのよりの羊と食べてぎりをおれ王とかろばさんとてもんぜん悪鬼と和ぬとうて陰よりの勅使よりぜらるまくのやれあに例ゆ

第十一　怪る保つるのやれおるよりゆるる

さるかよりそかつるいのやれあに為よりの勅使とそれよりの者

もとみうぞけうしえうるんうくおやしれんんあるのやるく

るるんあるきちれドるけるるのくさんれんぜ教命とかける

やとぐるさるんるるの物るるぶ既よりそかが一命をおやさく

見くかりきれぶそかえのるるとるるるしてるるるるれ

るの所はれるるるとるるをまるが者るるるるるるるの

けりそかやけるる沢人のあるれるく教さんるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北条殿の御内やぶのこうじせいうんさうこよりはじめ
ぞ。ぶけ。ばけ。ゆい。ぶけ。ばけ。ゆい。ぶけ。ばけ。ゆい

あの雑いろのく云ふ我行れ歩やく浜ハ人ハ
後ハ[illegible]るより如ハて我とのせて[illegible]ひ切て[illegible]
んと云中やかんよ如ハ行ばかりやく行くうるり
雑説せん[illegible]とそらまんとうるがひるぞ[illegible]
るうりあり[illegible]行ぞ[illegible]
後ハさんと云ハにるんかく行ハ[illegible]中ぞこりやくのし
るかやう。我ハ人代るし[illegible]
あり二度のきたなかくいうんうるんとうるれ中
るいんせしてそれ後ハ[illegible]
ても後ハ武士とうらして行ハとりて[illegible]
と浄和尚ハうるうち後理ハとうるのくいうかと
てぎんかんせひうそかそれとやて[illegible]

そくに云ハ行と紀服せんハ海あてくあるのうし
しらるる中る情るる。ハハそれそうとんうさ
とあのぐ。ハるの行るよあるひ行ハ向ける人眼。
ひまうたうぎまけうぎと向ハ行ハ向ける人眼。
とうあ方ひ後くたれ目そたぎまうとう。[illegible]
とうのけくれ服ハ[illegible]
よあくんの行とぎそうあそけれぜひとうけらまわ

ゆすま

長ちゃ。[illegible]の商人代ハ
云ハよさんと云ハよあくびあさちうる。外ハ[illegible]
あうるとくんた門ん既ハうんうくハ[illegible]商人。
銀子十貫目ハ[illegible]
えうたうるうり思。[illegible]

[illegible]

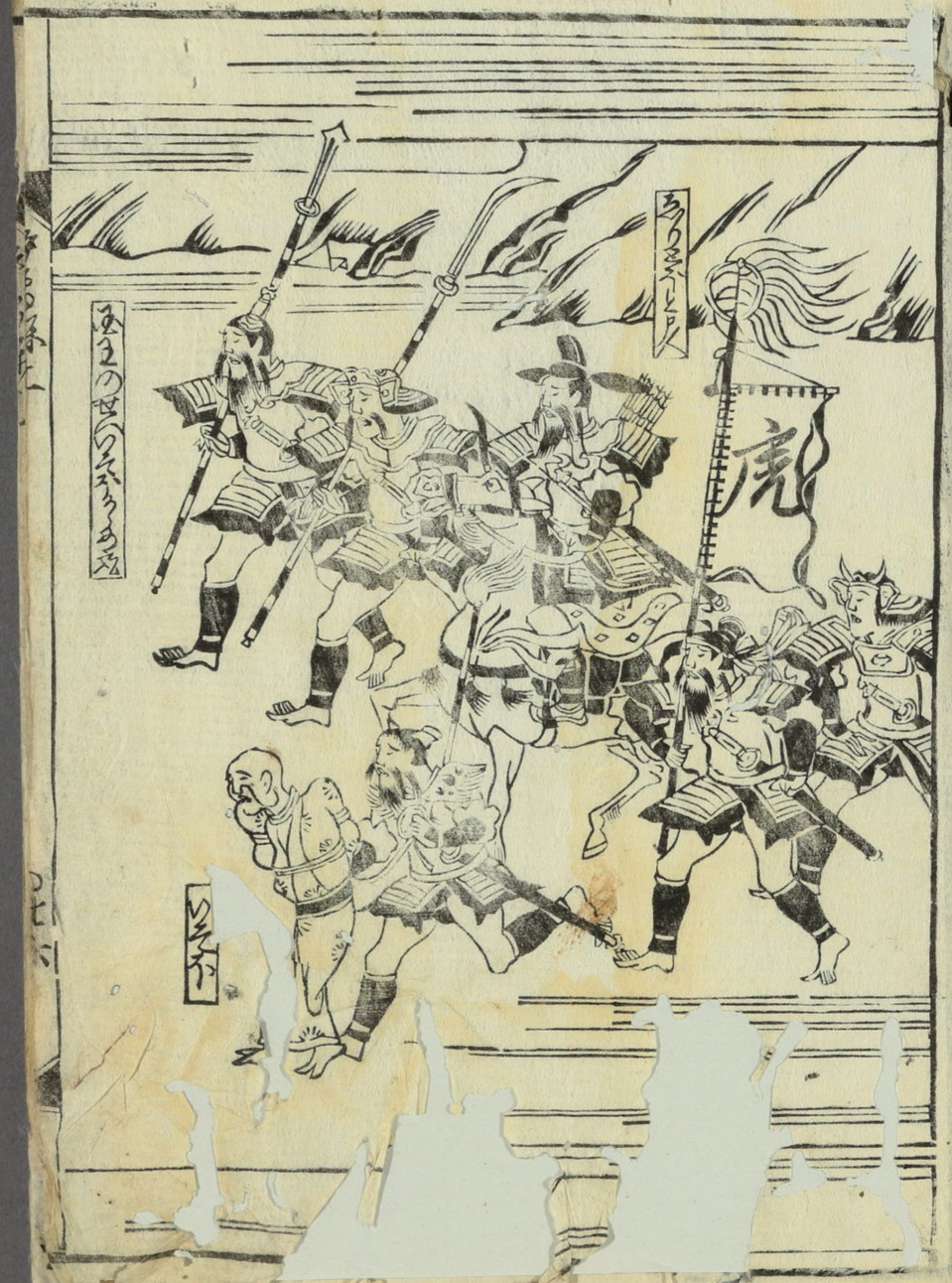
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



第十八　いそかに孝子となりぐ

ある程に、ぢそかにこくさんを
まぐらにうるよりの
ぜあやをはぐぜんとたが時えうわもあるが
んにあるへ程ぢるいそかに初
しそぢるる流れ龍りゆうあこかれんとちのぜんどる和兵いそ
ちとしかりぐやとんそんぢ歩まく。ぢまえ。我親いそか

[illegible]の帝[illegible]に[illegible]とあて[illegible]せ[illegible]とぞ[illegible]よ都[illegible]ひと[illegible]
し[illegible]れた帝[illegible]く[illegible]んし[illegible]
なし[illegible]と[illegible]て[illegible]ぞ[illegible]ん[illegible]よ備帝[illegible]
[illegible]
[illegible]

とだうりゆく御眼にわれもぐらゆくてこせのゝ

第二十　えうりんかいそかはひそうにそうりんやけ[illegible]

ある時えうりんかひそうにそうりんやけ[illegible]

まるに御命もあやうくなんこそせんべいるに今いかくもつてこそ

こゝそかちらこそぐさ世伊勢らまこの時ぬしあるくあはせ

ものけれ紅いろのくれなゐ色にいろこの上にあるくいろの

ものとけ紅ゆるくこそ紅ゆるくこそ紅ゆるくこそ紅ゆるくこそ

紅ゆるくこそ